

令和5年11月14日

No. 210

日立理科クラブ通信



日立理科クラブ

日立理科クラブ 授業支援研修会

10月20日(金)、田尻小学校(芳賀俊英校長)を会場にして行われた授業支援チームの研修会について紹介します。

授業支援チームは、小中学校で様々な授業支援を行っています。多くの教材を準備し、児童生徒にとってよりわかりやすいものとなるように務めています。この日は、田尻小学校の協力を得て、理科の授業を実際に見て、教員の動きや、子どもたちのわかり方を学ぶことにしました。

授業者は田尻小学校の萩原教諭で、4年生の単元「わたしたちの体と運動」で「うでが動くしくみ」の学習を参観しました。

腕が曲がるしくみを、牛乳パック(骨)とリボン(筋肉)で模型を作って考えようとするものです。先生は、この日の授業のねらいを確認後、児童を前に集め、模型の作り方について説明しました。そして、リボンがどこにどのように付いていけば曲がりやすいのか予想もさせました。児童は見通しを持たせたようで席に戻って試行錯誤を始めました。それを先生は児童一人一人の様子を見ながら、また、声をかけながら指導していました。

理科クラブのメンバーは、児童がどんな模型を作るのか、そして、先生がどんなアドバイスをするのか、また、児童がどんな記録をするのかに興味深そうに観察していました。

児童は、タブレットを使いこなして、実験の結果や考察をまとめていきます。児童によっては、ワークシートでまとめている児童もいました。一人一人の実態に応じて学習できるように配慮されているようです。先生はタブレットに書かれた一人一人の考えを把握して、画面に映して共有しながらうでが動くしくみについて一人一人の考えを深めていきました。

授業後に、萩原教諭から授業のねらいや、進め方について説明がありました。萩原教諭がきめ細やかな構想の下に授業を組み立て、実施していたことがあらためてよくわかりました。

また、事前に理科クラブから出していた「子どものやる気を引き出す方法」や「学校と理科クラブの連携のあり方」などの質問にも答えられました。「教えたい」「説明したい」をぐっところえるとよい、というアドバイスは支援チームにとっても参考になったようです。

教諭が教室に戻ってからも、授業支援チームには萩原教諭の授業を参考にしていくことを確認した上で、「理科クラブとしての」授業はどうあるべきか?熱心に議論を続けました。そして、理科クラブには、これまでに開発してきた多くの手作りの教材という財産があるので、それらのメンテナンスと新しい教材の開発を進めていくことになりました。大変充実した研修会となりました。



授業のねらいを確認



見通しを持たせる



児童の模型作りを観察する授業支援チーム



萩原先生との話し合い



協議する授業支援チーム